

- 名鉄バス 大山口
- ▶ 徒歩 4分
- ▶ 30 弘法大師座像と馬頭観音
- ▶ 徒歩 1分
- ▶ 31 白翁稻荷神社
- ▶ 徒歩 3分
- ▶ 32 明照寺
- ▶ 徒歩 9分
- ▶ 33 安祥寺
- ▶ 徒歩 2分
- ▶ 34 馬蹄石
- ▶ 徒歩 26分
- ▶ 35 見性寺
- ▶ 徒歩 1分
- ▶ 36 鵜飼邸「舎」
- ▶ 徒歩 4分
- ▶ 37 内々神社社殿
- ▶ 徒歩 1分
- ▶ 38 内々神社庭園
- ▶ 徒歩 15分
- ▶ 39 妙見寺
- ▶ 徒歩 17分
- ▶ 40 内津峠の道標
- 名鉄バス 内々神社

所要時間
約1時間30分

距離
約6.1km



G 横井也有と内津のすみれ塚

俳人の横井也有は尾張藩の有力藩士で、若くして俳諧の名手として知られた人物です。隠居後、内津への旅の紀行「内津草」を著しました。内々神社の東側の丘には、也有が揮毫した芭蕉の句「山路来て何やらゆかしすみれ塚」など江戸時代の句碑が6基あり、「すみれ塚」と呼ばれています。これらの句碑は、也有に私淑していた内津の俳人の長谷川三止らが建てたものです。



春日井の下街道ガイドマップ

編集・発行 春日井市教育委員会文化財課
協力 春日井文化財ボランティアの会
平成28年3月31日 発行
令和7年3月31日 改訂
表紙絵図/尾張名所圖会より引用し着色



33 あんしょうじ 安祥寺

曹洞宗大須万松寺の末寺で、宝暦5年(1755)に現地に移されました。境内には妙見堂、観音堂が建ち、御嶽山大権現、佐倉宗吾郎碑、二十二夜石があります。明治期に西尾地区の石仏が集められ、参道にまつられています。



34 ばていせき 馬蹄石

「字駒返り」の地にあり、日本武尊が東征の帰途、建甌種命をまつた内津を振り返った時についた馬の蹄跡といわれています。この時、馬の尾が西を向いたので西尾(さいお)の地名が生まれたという伝説もあります。



35 けんしょうじ 見性寺

天文2年(1533)の創建も一時荒廃し、安永6年(1777)綱國玄提和尚が再興しました。大般若經600巻(市指定文化財)を所蔵しています。俳人横井也有と親交があり、也有筆の句碑などがあります。



36 うかいてい やまきち 鵜飼邸「舎」

舎(やまきち)という屋号の商家で、大正の初め頃まで金勢丸(腹糞)、正生丸(解熱剤)の製造販売や、味噌、たまりの醸造で栄えました。銅板の唐破風屋根と龍の彫物のある看板が2枚残されています。



37 うつつじんじゃしゃでん 内々神社社殿

社殿は、文化年間(1804-1817)に、信州諏訪の名工立川一族の手によって建てられたものです。構造は、本殿と拝殿を合の間で結ぶ権現造りで、社殿の彫刻も併せ、近世を代表する神社建築といえます。*県指定文化財



38 うつつじんじやていえん 内々神社庭園

作庭時期は不明ですが、回遊式林泉型庭園で、南北朝時代の名僧夢窓疎石(1275-1351)の作庭ともいわれています。裏山の景色を借景として取り入れ、傾斜を利用し、自然石が巧みに配置されています。*県指定文化財



39 みょうけんじ 妙見寺

嘉暦年間(1326-1328)密蔵院開山慈妙上人により、内々神社の神宮寺として創建されました。妙見菩薩が本尊で、現在の本堂は元の護摩堂で、信州諏訪の立川一族に学んだ野村作十郎らにより建てられました。



40 うつつとうげ どうひょう 内津峠の道標

県境付近にあり、旧国道19号線から多治見市の廿原(つづはら)へ向かう三叉路の角にあります。自然石に「右 廿原道」「左 江戸善光寺道」と刻まれ、善光寺道とも呼ばれた下街道の貴重な道標の一つといえます。